

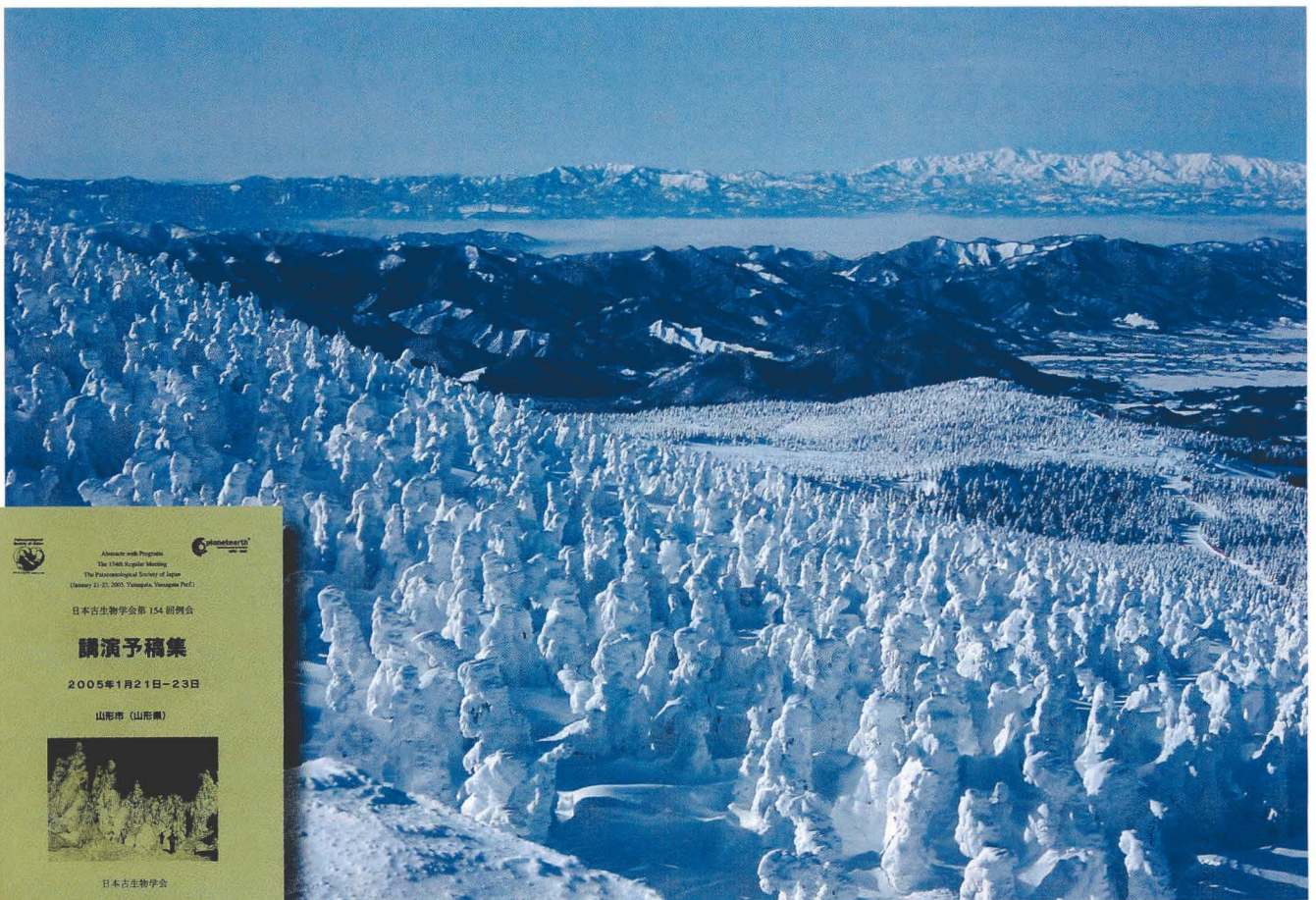
自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 11, No. 1

神奈川県立生命の星・地球博物館

Mar., 2005



蔵王の樹氷

(地蔵山から朝日連峰を望む)

2005年1月23日

撮影：佐藤武宏（学芸員）

左下：日本古生物学会

第154回例会講演予稿集

絵：井上望氏（山形大学理学部3年）

おおしまみつはる

大島光春（学芸員）

蔵王で樹氷ができる理由は、①オオシラビソ（別名アオモリドマツ）からなる常緑針葉樹林であること、②日本海の対馬暖流によって水蒸気を多く含んだ北西風が、朝日連峰でたくさんの雪を降らせるため、蔵王では雪が多すぎず、少なすぎないこと、③一度雪を降らせた雲が山形盆地へ下ってから蔵王に達するのですが、この雲が過冷却水滴を蔵王に吹き付けることだそうです。

山形市で開催された古生物学会のシンポジウムでは、古環境復元の指標として、海底コアの有孔虫や放散虫化石の

有用性が発表されていました。それによれば有孔虫では6000年くらい前から、放散虫でも3000年くらい前から下北沖の海洋環境が現在とほぼ同じように暖かくなったと考えられるそうです。

1万年前には樹氷がなく、千年前には樹氷まで行けず、千年後には地球温暖化で樹氷ができなくなっているかもしれません。私たちは今、新幹線を降りて、ハイヒールでも（推奨しませんが）樹氷を見に行くことができます。幸せな時期に生まれたことに感謝しつつ、樹氷のある景観を堪能しましょう。